岡山県／ＩＴ戦略で拓く新世紀おかやま

キーワードは日常管理・情報公開

建設ＩＴ最前線

ＣＡＬＳ／ＥＣ新時代

地方自治体の取り組みを見る

情報ハイウエイ構築し行政サービス向上

他県に先駆け電子化を積極導入

山陽道の中央に位置する岡山県は、中四国地方の交通の要衝として古くから栄えてきた。街道という情報インフラを活用することで栄えた岡山県は今、次世代インターネット技術であるＩＰｖ６（インターネット・プロトコル・バージョン６）を全国の自治体に先駆けて導入するなど「情報先進県」の構築に熱心に取り組んでいる。その岡山県のＣＡＬＳ／ＥＣの取り組みが本格的にスタートしたのは02年のこと。自治体として初めて電子入札を実施した。以来、４年間で委託業務と指名競争入札案件のほぼすべてに電子入札を導入、本年度からはいよいよ公共工事の情報共有化に向けた実証実験をスタートさせる。岡山県のＣＡＬＳ／ＥＣの取り組みを土木部技術管理課管理情報班の横山一孝総括主幹（管理情報班長）、石田篤史技師に聞いた。

岡山県土木部
技術管理課管理情報班
総括主幹（管理情報班長）横山　一孝氏

7つの重点戦略で情報先進県おかやまへ

本紙　岡山県の電子自治体への取り組みは。

横山　01年度に策定した「おかやまＩＴ戦略プログラム」で本県は豊かな人材とネットワーク環境に支えられた魅力的な市場〝ＩＴフィールド〟の構築に取り組みました。その成果として全国にも類を見ないほど整備された情報ハイウエーによる行政サービスの電子化が進展したのではないかと自負しています。02年度には具体的な計画となる「情報化推進計画」をベースに電子自治体構築への取り組みをスタートさせています。このＩＴ戦略プログラムを進化発展させた「おかやまＩＴ戦略プログラムｅｅ（エボリューション・エディション＝進化・発展版）」を03年度に策定、「ネットワーク戦略」「生活実感戦略」「経済活性化戦略」「電子自治体戦略」「人材育成戦略」「情報首都戦略」「安全・安心戦略」という7つの戦略に沿って県全体の情報化を進めているところです。

既にネットワークの基幹回線の整備はほぼ完了。ＩＰｖ６による情報ネットワークの構築も着々と進んでいます。ＩＴを活用した教育活動やＩＣタグによる農畜産物のトレーサビリティーといった先進的な試みにも取り組んでいます。国の構造改革特区制度を活用して「ＩＴ特区」にも指定されています。公共工事分野についても02年4月に都道府県として初めて電子入札を実施しました。

目的は日常管理の向上と情報公開の推進

本紙　ＣＡＬＳ／ＥＣの取り組み状況は。

石田　岡山県ではＣＡＬＳ／ＥＣを日常管理と情報公開を促進するための方法だというスタンスでＰＲしています。より良い日常管理が可能になれば、公共施設の品質は必ず向上します。また、情報公開により県民に公共事業を身近なものだと感じてもらい、必要性を理解していただきたいという思いもあります。

横山　ＣＡＬＳ／ＥＣの導入には行政サービスの向上、財政構造改革の推進という目的があるのはもちろんですが、その先には県民に行政情報をしっかり公開しようという狙いがあります。

本紙　今年4月には「ＣＡＬＳ／ＥＣ　メッセ　岡山」を開催しましたね。

石田　県発注の公共工事を受注する建設会社を対象にした普及・説明会で、主催は岡山県建設技術センターで、県が後援しました。25日と26日の2日間で800人もの方にご来場頂きました。メッセを開こうということになったのは、やはり県だけでＣＡＬＳ／ＥＣを勝手に進めることはできないからです。受注者である建設会社のみなさんに県の取り組みと、これから進めようとしている施策について知ってもらいたい。さらに、ＣＡＬＳ／ＥＣについての正確な情報を伝えたい。メッセを通じて県の思いはある程度伝わったのではないだろうかと考えています。

ＣＡＬＳ／ＥＣメッセ岡山の様子

横山　今回のメッセは県としても初めての試みでした。今回はＣＡＤを中心にＣＡＬＳ／ＥＣについての情報を伝えました。幸い建設業界の関心も高まっています。6月には県や市町村、建設業協会などからなる「岡山公共工事ＩＴ（ＣＡＬＳ／ＥＣ）連絡協議会」が発足しました。協議会などの場を通じて建設業界とも協力してＣＡＬＳ／ＥＣをさらに推進させていきたいですね。

本紙　電子入札は年間何件実施しているのですか。

石田　電子入札は02年4月から委託案件で試行導入、同年9月に全面実施しました。工事については同年11月から指名競争入札で試行開始、04年12月から指名案件で全面導入しています。実施件数で見ると05年は委託が1040件程度、工事が3300件程度ですね。本年度から一般競争入札などにも電子入札を実施しています。

本紙　件数ベースで見ると電子入札はかなり進んでいますね。

石田　電子認証局の整備運営やＩＣカード（電子証明書）の発行を県が直接行っており、すべての入札参加者が電子入札に対応できるようＩＣカードを無償で貸し出しています。また、パソコンを整備できていない入札参加者には発注担当事務所に配備してある入札用のパソコンで応札できるようにしています。こうした措置を通じて、県が電子入札にかかわるコストや、受注者の負担を軽減しているので、電子入札の件数をある程度増やすことができたのだと思います。

情報共有化

各部門の認識レベルをフラットに

ライフサイクルマネジメントを導入

情報共有化に向け実証実験をスタート

本紙　電子納品は実施しているのですか。ＣＡＤを使って設計情報などのデータ交換を電子化しているのでしょうか。

石田　工事における電子納品はこれからです。10月以降に工事を対象に一部試行することになる予定です。県としては情報共有化と電子納品を関連づけたいと考えています。ＣＡＤについては、昨年12月に、福井コンピュータのＥＸ－ＴＲＥＮＤ（エクストレンド）武蔵とＥＸ－ＴＲＥＮＤ Ｗｉｎ官公庁専用シリーズの検査用ＣＡＤであるＴＲＥＮＤ ｆｆ（トレンド　フォルテシモ）を閲覧・編集用のソフトとして導入しました。導入に当たって県はプロポーザル方式による選定を実施。価格だけでなくアフターサービスまでを含めた総合力を評価しました。

本紙　具体的にどんな点を評価したのですか。

石田　日常サポートと研修計画の2点についてプロポーザルの評点を高く設定しました。県には約800人の技術者がおり、この技術者を対象に3年間でどんな内容の研修をどの程度実施できるのかを提案してもらいました。

横山　どんなに優れたソフトでも使いこなせなければ意味がありません。10の機能のすべてとは言いませんが主要な機能はしっかり使いこなす必要があります。職員も導入を機に一生懸命研修を受けていますし、実際にＣＡＤの必要性も感じているようです。

岡山県土木部
技術管理課管理情報班
技師　石田　篤史氏

電子納品

08年度が実質的な出発点

標準化で作業の効率化を

石田　業務委託についてですが、昨年度から電子納品の試行を開始し、紙の図面からＣＡＤへと徐々に移行していく予定です。06年度は全体の25％、07年度は50％、08年度には100％がＣＡＤ図面になる計画です。

本紙　情報共有化についてはどうですか。そもそも共有すべき情報とは何かが明確になっていないように思うのですが。

石田　確かに情報共有化という言葉は定義があいまいですね。県としては受発注者の認識レベルをフラットにし、なおかつ発注者内の企画、設計、監督といった各部門の認識レベルもフラットにすることが情報共有化だと考えています。その意味でベースになるのは現場ですね。つまり、監督支援システムが情報共有化の基本にあるということです。独自にシステムを構築するのか、ＡＳＰ（アプリケーション・サービス・プロバイダー）を採用するのか、今年度は実証実験のパートナーを選定し、具体化させていく予定です。

情報共有化で大事なのは標準化です。日常管理の質を上げ、公共施設のライフサイクルコストを削減させるには、標準化による作業の効率化を図る必要があるからです。標準化には用語や書類、データ形式の統一だけでなく、意識・認識の統一が重要になります。標準化を通じて複数の情報を連携活用するライフサイクルマネジメントを県に導入する。それが我々の役割だと思っています。

本紙　現状では08年度がＣＡＬＳ／ＥＣアクションプログラムの最終年度です。この時点で情報共有化はどの程度進んでいるのでしょう。

横山　情報共有化にしても電子納品にしても、スケジュール通りには進まないこともあるでしょう。ただ、我々としては保管管理すべきデータとは何か、有効利用すべきデータとは何か、公開すべきデータとは何か、といったことについてある程度まとまった考え方が示せるのではないかと思っています。データが蓄積され、そのデータをどう活用すべきなのかという基本的な考え方がまとまる08年度が岡山県のＣＡＬＳ／ＥＣの出発点になるのではないでしょうか。

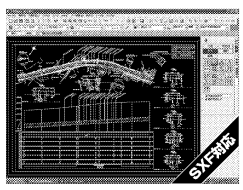
夢を具現にデザインします
FUKUI COMPUTER

実務で使える電子納品対応CAD
体験してみませんか?

CALS対応土木システム【エクストレンド武蔵】
EX-TREND 武蔵

無料体験版が完成!
この使いやすさと便利さ、そして確かな成果を実感して下さい!
日本の建設事情を知り尽くしたCALS対応システムです。

体験版では3つのプログラムが30日間ご利用いただけます



■土木CAD（+CAD製図基準アシスト）
わかりやすい画面構成と、土木業務に最適化された機能で大好評のCAD。体験版には「CAD製図基準アシスト」もついており、エラーチェックから修正まで自動処理してくれます。

■電子納品
「ファイル登録ナビ」が図面や成果資料を自動で仕分けしてくれる電子納品支援プログラム。誰でも簡単に扱える操作性で、全国の建設業の方をはじめ、発注機関からも多くの支持を得ております。

■写真管理
ドラッグ&ドロップ操作で直感的に扱える写真管理プログラム。数千枚単位の膨大な写真データでも、これまでの製品に比べ圧倒的なハイスピード処理を実現しています。

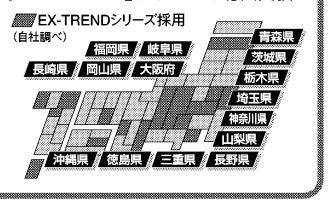
さらに充実のラインナップ
「EX-TREND　武蔵」製品版では、上記プログラムのほかにも多数のプログラムをご用意しています。
■ 面積計算／面積計算
■ 構造物数量計算
■ 各種展開図／出来形図
■ 路線計算／路線図
■ 縦横断計算／縦横断図
■ 出来形管理
■ コンクリート品質管理
■ アスファルト温度管理

●「EX-TREND 武蔵」は、国土交通省をはじめとした各発注機関の電子納品要領（案）に対応しています

4割を超える発注者が採用する
信頼の「EX-TREND」シリーズ

電子納品管理ソフトの導入が完了している35府県のうち、15府県の導入実績を誇る「EX-TREND」シリーズ(※1)。電子納品事情を知り尽くした福井コンピュータは、発注者と受注者の双方において、スムーズなIT化移行を実現するシステム&ソリューションを提供し続けています。
（※1）EX-TREND 官公庁専用シリーズ。（TRENDff、電子納品管理システム含む）
（※2）各都道府県における、EX-TREND 官公庁専用シリーズの導入状況。（平成18年2月現在）

「EX-TREND」シリーズの導入実績



体験版のお申し込みは➔　www.fukuicompu.co.jp

福井コンピュータ株式会社　本社／福井市高木中央1-2501 TEL.0776-53-9200 FAX.0776-53-9201
札幌・青森・盛岡・秋田・仙台・郡山・長野・長岡・埼玉・高崎・宇都宮・水戸・千葉・東京・立川・横浜・静岡・名古屋・岐阜・富山・福井・京都・大阪・神戸・阪和・岡山・広島・松山・高松・山口・福岡・大分・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄